

No.5-2007

平成19年5月31日発行

祝 創立55周年 ～更なる飛躍を～



本年度創立55周年という区切りの年に理事長を務めさせていただき、多くの皆様のご支援によりその職務に専念できる事に感謝申し上げます。

また、5月12日に開催いたしました創立55周年記念式典・記念講演会・記念祝賀会も、皆様のご協力によ

り盛大に行え、十数年ぶりの100%例会であった事は、理事長職を預かる者として何事にも代え難く嬉しい限りでした。

55年の伝統と歴史の重みについては、今更ですので割愛させていただきますが、現在の「JCニュース」の前身であります「AKITA JC monthly」が発刊されたのが1964年でした。以来43年間もの長きにわたり『不連続の連続』という単年度制の中で継続して発行されてきました事に対し、あらためて歴代関係委員会の皆様のご努力に敬意を表します。

さて本年度、Let's55「青年らしくRASIKU」～おおらかな風 あきたから～をスローガンにスタートをし、間もなく折り返し地点にさしかかります。後半は事業盛りだくさんとなって参ります。社会変革運動推進を目指し、更なる飛躍に向けて共に邁進しましょう。

理事長 進藤文仁



5月12日に行われました創立55周年記念式典並びに祝賀会、そして記念講演が実行委員会各部長をはじめとします全てのLOMメンバーの協力をいただきまして無事に終えることができましたこと、まずもって感謝申し上げたいと存じます。また、ご多用のところご臨席を賜りましたご来賓の皆様、来訪JC、そしてOB会の皆様はこの場をお借りいたしまして心から御礼申し上げます。

本周年事業を成功裏に終えることができたのは、表舞台で自分の役割を実行していただいた方は勿論のこと、これらの方々を裏方で一生懸命支えていただいたメンバー、そして送迎や駐車場整理等会場の外でもご尽力いただいたメンバー一人ひとりの力の結集があったからこそと強く感じると共に、秋田JC個々のメンバーのポテンシャルの高さを再認識した一日でもありました。

この実績と経験を10月開催予定の記念事業、そして記念誌発行にも生かし、ひいては今後の様々な事業の成功に繋げるべく、メンバーの皆様の更なるご協力をお願い申し上げまして、御礼の言葉にかえさせて

いただきます。本当にありがとうございました。

副理事長(55周年実行委員会 委員長)長谷川尚造



祝 創立55周年 ～更なる飛躍を～

前ページから続く

記念式典は、身内だけではなく、外部のお客様もお呼びし「これまでの感謝」「これからのJC運動継続という意思」を表明する場であり、きわめて厳かなものであります。

1時間という短い時間の中で、いかに秋田JCらしさを出すか、また、滞りない運営ができるかが私たちの課題でした。様々な試みをしては変更、というように試行錯誤を行って本番を迎えましたが、本番は担当者としてたいへんに満足のいくものでした。外部の皆様にもおおむね好評で、秋田JCの存在感を示せたのではないかと思います。

直接JC運動とは連動しない式典ですが、あたりまえのことをきちんとこなし、出来るということを示すことは、周囲の方にも信頼感・安心感をあたえ、今後行っていくJC運動に必ずプラスになると考えます。

式典に携わっていただいた、多くの方々へ感謝するとともに、今後はこの経験をいかしJC運動に邁進していきたいと思っております。

55周年運営委員会 委員長 田口正人



10月の記念事業に向けて

時代と共に変化してきたライフスタイルは形だけではなく、人の心をも変えてきたと思われれます。人と人、特に世代間のコミュニケーションは不足しがちで、受け継がれてきた“あきたらしさ”が継承されにくい環境にあるのではないのでしょうか。

幅広い世代の方々の交流によって、「ふれ愛」「認め愛」「助け愛」の三愛精神を育む世代間協働事業を、現在、地域の多方面の方々と共に企画しております。

「あきたの将来を担う子供たちに何を伝えるべきか？」そして「どうすれば、地域の方々に新たな生きがいを持っていただけるか？」などの議論からスタートさせ、多くの意見を頂戴しました。結果、「言葉で何かを伝える、ということではなく、地域の人々との、

時間と体験を共有することが、大切なのではないか」という意見が多くありました。

そこで、あきたならではの遊びを体験したり、方言を用いた郷土かるたで遊んだり、伝統芸能や文化など、様々なジャンルを一堂に取り揃え、地域の方々が大勢で“あきたらしさ”を体験できる事業を考えております。

まだまだこれから作り上げることばかりではありますが、10月に向けて委員会メンバー一丸となって事業の成功に向けて尽力してまいります。皆様のご協力よろしくお願い致します。

世代間協働推進委員会 委員長 進藤 史明

地域連携推進オープン委員会Iを終えて

5月17日(木)19:00より秋田キャッスルホテルにて、地域連携事業に関するオープン委員会を開催いたしました。当日はJCメンバー、OB会員、教育関係者などから40名余りの皆さんが参加し、当委員会では8月の開催を検討中している「中学生職場体験」に関する内容について意見交換を行いました。多方面からすばらしいアイデアをいただき、大変有意義な会となりました。

今後に向けて詳細を積み重ねる時間はわずかとなりましたが、委員会メンバー全員が事業の成就に向けて邁進していきたいと考えております。本会の開催に協力いただきました関係者の方々に対しまして、この場を借りて感謝申し上げます。

地域連携推進委員会 副委員長 木村昭彦



特集：マスコミに伺いました

第5回

朝日新聞社 秋田総局長

坂野 康郎 様

(さかの やすろう)



国 安：どうぞ宜しくお願いいたします。早速ですが、JCという組織はご存知でしたか？

総局長：いろいろ投げ込み（リリース）なんかいただいているので「まちづくり」に力を入れている団体だという存在は知っていました。けれども、どうやら商工会議所の青年部と同じ組織だと誤解していて、別の組織なんだと気づいたのは記者になってしばらく経った頃でした。すみません（笑）

国 安：そうでしたか。似て非なる組織ですものね。気づいてからはどういった団体だと感じましたか？

総局長：そうですね。青年会議所って政治家の方多いじゃないですか。麻生太郎さんがそうだし、秋田で言えば佐藤敬夫さんとか……。だから政治家を輩出する松下政経塾みたいな団体という印象がありました。青年会議所の方では意識していないかもしれませんが。

国 安：あ～そうですか。別にそんなことを意識しているわけではないんですけどね……。ところで、総局長は秋田に赴任されたのは昨年ですよね。秋田の雰囲気はいかがですか。

総局長：実は、秋田には20年くらい前に一度記者として赴任しているんですよ。大潟村の「ヤミ米騒動」のころです。そのときもJCさんとは投げ込みを記事にしたくらいで、あまり積極的な交流はありませんでした。今はというと、投げ込み資料は記者の所で止まって、私の所まで来ないんですよ。

国 安：あらあら残念ですね。ということはやはりJCはあまり近くない存在でしょうか。

総局長：う～ん、はっきり言うとそうかもしれませんね。青年会議所というネーミングだと、一般の人はどんな団体か、活動内容がわかりづらいじゃないですか。「名は体を表す」というけど、活動の中身をすぐに連想できる名称だといいなあ。先日55周年記念式典にも少し顔を出しました。伝統ある団体だと思うけど、最近はNPOを含めればいっぱい団体がありますよね。そんな中で、この行事＝あの団体みたいに連想できるネームバリューがあればいいですね。

国 安：ではJCの事業について知っている部分はないですか？

総局長：ええと。サケの稚魚放流とかは毎年やってるんですよ。あとは人間力大賞とか……。聞いたことがありますね。

国 安：そうです。ありがとうございます。人間力大賞は昨年私が担当したんですよ。昨年赴任した総局長がご存知だということは、宣伝の効果があったということですね。うれしいです。取材までもう一步ですかね。

総局長：ほかには何があるんですか。

国 安：そうですね。クリーンアップとか水打ち等の環境事業や小学生を対象とした職場体験、秋田ブロックとしての事業になりますが、わんぱく相撲なんかが有名なところでしょうか。

総局長：ああ……。全部青年会議所なんですか。知らなかった。イベントばかりに思えるけど、総合的なコンセプトって何ですか？

国 安：「まちづくり ひとづくり」を基本として「秋田を元気にしよう」ってことでしょうか。毎年テーマはあるんですよ。今年はLet's55 青年RASIKU ～おらかな風 あきたから～ となっています。

総局長：行政や市民に対しての「骨太な提言」があると、わかりやすいんじゃないかな。秋田を元気にするっていうなら、サークル活動みたいな事業だけでなく提言活動もしたらどうなのかって思いますね。選挙運動じゃないけど、自分たちの考えを「言葉」でアピールする場（提言・提案・ディスカッション）があると伝わりやすいんじゃないかな。

国 安：アピールですか。難しいですね。

総局長：秋田ってスポーツが盛んですよ。その辺は協力体制がないのかな。みんなで一緒に盛り上げよう！なんていいじゃない。

国 安：そうですね。JCの中では同好会でサッカーとか野球とかラグビーとかあるんですけど、秋田のチームを直接応援っていう事業は少ないかもしれませんね。いい提案だと思います。特に今年は国体だし。

総局長：そうそう、地元開催なんてめったにないことだから。うちでは冬の国体で秋田県選手が表彰台を独占したときをはじめ、県内で号外出したんですよ。めったにないことや、他でやらないことで盛り上がるときは、記事にしやすいんですよ。

国 安：皆さんそうおっしゃいます。実は55周年ということで、先日の記念講演に続き、10月に大森山で事業を予定しているんですよ。そのときもリリースを持参いたしますので、ぜひお願いします。

総局長：そうですね。「まちづくり」って言えば、私が20年前秋田に来たとき華やいでいた駅前、なんであんなに寂しくなっちゃったんだろう。我々外部から来た人間って、すごい危機感持つんだけど、秋田の人って「別にいいじゃん」みたいな……。なんてだろう。

国 安：ああ、そうかもしれませんね。愛着がないわけではないんでしょうが……。

総局長：私はいつも部下に言うんですよ。秋田を元気にする記事を書けて。

国 安：ありがたいですね。私たちがもっと危機感を持たないと！ 今日はありがとうございました。



6月例会を開催いたします

6月11日(月)18:30~6月例会を秋田キャッスルホテルにて開催いたします。

当日は、「広報、宣伝とは何か・なぜ必要か」についてお話しいただくために北海道より講師をお迎えし、委員会毎のテーブルワークでそれぞれの会社での手法を話し合ってくださいとともに、先生からコメントをい

ただき、「こうすればもっと」を気づいていただく設えとなっております。

「これ以上仕事来なくてもいい」と考えているメンバー以外はぜひ出席ください。

総務広報委員会 委員長 国安 忍

講師プロフィール



Janis Prompt

代表：佐山さつき

北海道室蘭市出身。伊達市役所に7年間勤務の後、北海道造形デザイン専門学校にてデザインと広告を学びながらフリーでデザイン制作活動開始。

1983年：広告代理店入社。企画制作局にて一般販促・広報関連のデザイン、ディレクション業務を経て1995年より新設部門のインターネット事業局にてプロデュース業務。

2002年：デザイン&プランニングオフィスJanis Prompt代表に。印刷媒体、電波媒体、インターネット媒体と、すべてのメディアの活用手法に精通していることで、産業各分野での効果的な情報発信と効率的なメディア活用を提案。

講演、パネリストなど

2001年『農業を元気にするフォーラム』コーディネーター(委託：札幌広域圏組合)

2002年『アジアインターネットウェブ2002』パネリスト(委託：北海道総合通信局)

2002年『札幌情報通信セミナー』にて講演(委託：北海道総合通信局)

2004年『すぐ役立つ情報発信手法とPR手法』オホーツク起業研修会講演(委託：北海道)

ゲストティーチャーin新屋高校

去る5月17日、今年度初めてのHANAUTA倶楽部対外事業の機会がやってきました。

過去3年間に渡り人間力開発プログラムを開催してきました新屋高校さんから、今年は就職希望の3年生に対して講演を行って欲しいとの要望があり、当日は進藤理事長、渡部直前理事長、阿部・青井副理事長、金子委員長、中村の6名で訪問しました。

内容は「社会人としての心構え」「最低限身に付けておかなければならないマナー」等具体的な事例を交えて講演を行って欲しいとの事で、講師は昨年公式コーチ認定を受けた渡部直前理事長、青井副理事長、金子委員長と私、中村が努めました。講師4人とも業種が違い、それぞれの実体験を基に、仕事における厳しさや楽しさ、苦労や生きがいなど様々な側面から講演を行いました。終了後、進路指導の先生からは高い評価をいただき、2月くらいに2年生に対しても行いたいので検討して欲しいとの言葉もいただきました。



今回はHANAUTAをベースにした人間力開発プログラムではありませんでしたが、人間力開発

に繋がる部分もありましたので、これからもこのようなケースは多くあると思われま。出来る限りの対応を考え、本年度も人間力開発を推し進めて行きたいと思っておりますので、メンバーの皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。

HANAUTA倶楽部 会長 中村 純也

ホームページを見られない方へ

ホームページをご覧いただくことが出来ない方はFAXにてお送りいたしますので、事務局へお問合せください。
大好評！秋田JC便り毎週更新中！ 秋田JCの今がわかる旬のブログ。今週も更新中です！是非ご覧ください。

編集後記

55周年皆様大変お疲れ様でした。何事もなく無事に終了できて大変喜ばしい限りです。55年という歴史を感じながら様々な場面取材させていただきました。

さて来月は、総務交流委員会の担当例会(6月11日キャッスルにて)が行われます。

是非、参加いただきます様お願い申し上げます。私も久しぶりのJCIクリードですので、少々緊張気味。しっかり務めさせていただきます。

総務広報委員会 委員 阿部 勇一